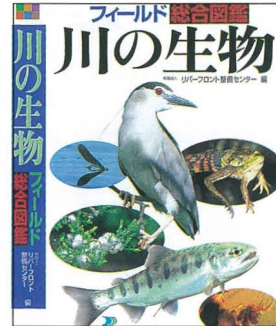


新刊図書の紹介

「Cyclopaedia 川の生物図典」／「フィールド総合図鑑 川の生物」



平成8年4月発行
編集：（財）リバーフロント整備センター
発行：山海堂
体裁：B5版 688頁
定価：19,776円（本体19,200円）



平成8年4月発行
編集：（財）リバーフロント整備センター
発行：山海堂
体裁：B6版 384頁
定価：3,193円（本体3,100円）

■ 川へ

川で暮らす生き物を見ていると、人間も生き物、自然の一員なのだということが再認識できます。川を、守り、創り、後世に残していく。その意味で多自然型川づくりの担う役割は非常に重要です。こうした中、川づくりの現場では、河川工学はもとより、他に生物の生態に関する様々な知識が必要となっています。

本書は、河川環境（河川形態や水環境）と生物の生態・生活史との係わりに焦点を置き、河川に係わる技術者が、川で見られる代表的な生物に関する一定の知識を習得できるような資料をめざすとともに、川を愛し、川に関心のある人達が川の自然に対する理解や愛情を更に深める一助となることを願って作られました。

本書の発行にあたっては、ご監修いただいた先生方をはじめとする多くの学識者の方々から貴重なご指導を賜るとともに、掲載写真についても多数の研究者、自然愛好家の方々から多大なご協力をいただきました。ここに記して感謝を申し上げます。

『多自然型川づくりの取組みとポイント』 —まちと水辺に豊かな自然をⅢ—

多自然型川づくりの取組みは全国に急速に広がっていますが、川づくりの現場での悩みや問題も従来以上に多くなってきています。川にはそれぞれ個性があるので多自然型川づくりには画一的なマニュアルや手法はあてはまりません。多自然型川づくりをよりの確に実施するためには関係者一人一人が多自然型川づくりとは何かをしっかりと認識して川づくりのポイントや留意点を知る必要があります。

リバーフロント整備センターでは、このような問題意識のもとに“多自然型川づくりの取組みとポイント”をテーマに、「まちと水辺に豊かな自然を」シリーズ第3弾を今回出版するはこびとなりました。本書は、多自然型川づくりに関する最新の情報を満載しており、川づくりに携わる方々はもちろんのこと、川づくりに関心のある方々に必携の一冊となるものと考えております。



平成8年7月10日発行
編集（財）リバーフロント整備センター
発行（株）山海堂
体裁 A5判、240頁、
定価 2,678円（本体2,600円）